

令和6年度 江東区立なでしこ幼稚園 自己評価表

園長 松岡 克恵

目標に向けた取組についての自己評価

重点領域 1		質の高い幼児教育の実践			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	・幼児一人一人と信頼関係を築きながら実態や興味・関心を大切にしたりわかりやすい言葉がけや指導、幼児がわくわくするような環境の構成を行う。	84%	・好きな遊びや学級全体の活動を楽しめる幼児が90%以上になる	102%	A
2	・「こども主体の」意味をよく考え、こどもの声をよく聴く教育を実践する。	84%	・自分を十分に発揮し自分の思いが実現する楽しさを感じられる幼児が90%以上になる	84%	B
3	・日々の保育を振り返り「幼児期に必ず経験する内容を確実に体験」できるよう、実態、幼児理解、援助について評価・反省を行い、遊びの充実を図る。	78%	・保護者アンケートの「教師は幼児の興味・関心を読み取り遊びがさらに楽しくなるように教材や環境作り、指導方法を工夫している」の肯定回答率が100%になる。	100%	A
4	・教師自ら自然物、自然現象、社会事象等に関心をもち幼児の知的好奇心や探究心を高められるようにする。（幼児の刺激となるような言葉がけ、環境構成、遊びのきっかけ作り等）	77%	・様々なことに興味・関心をもって関わり、不思議さやおもしろさを感じられる幼児、試行錯誤して遊ぶことを楽しめる幼児が90%以上になる。	87%	B
5	・自らの課題を把握し研修、研鑽に励むと共によりよい保育を目指して積極的に教職員と連携を図り「チームなでしこ」で幼児を育成していくという意識をもつ。	85%	・幼児一人一人が受け止められているという安心感を持ち「幼稚園が好き」と感じる幼児が、95%になる。	101%	A

<結果についての分析と改善策>

○分析

<全体>

・日頃から教職員間で他学級の園児・保護者の様子を伝えあっていた。自分のクラス以外のことにも視野を広げ共通理解を図ることが日常的だった。

<年少>

・スキンシップを大事にしながらかつて幼児一人一人が好きな遊びを見つけられるようにしたり、学級の活動で端的で目で見て分かりやすい伝え方を工夫したりするなど、幼稚園で安心して過ごすことを大きなねらいとして保育を進めたことでこどもたちがのびのびと自己発揮する姿につながった。

・幼児の興味・関心に合わせて季節を感じたり、体を動かす楽しさを感じたりできるような環境を工夫した。また、幼児が「やってみたい」と思えるような教師の働きかけがあることで、自ら関わって遊ぶ幼児が多く、経験が広がってきている。

・3歳児なりに「何だろう?」「どうしてだろう?」という疑問や興味をもてるような導入や教師の関わり方を意識してきた。3歳児は遊びの継続時間が短く、疑問をもってもすぐに興味が移り変わるので難しさもあった。

<年中>

・園内研究のテーマを受け、園庭での遊び方を考えたり、なでしこの森の活用を計画的に行ったりすることができた。しかし、園庭で過ごす時間が長くなった分、室内遊びの充実に課題が残った。

<p><b>&lt;年長&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に遊ぶ楽しさや、思いを出しながら遊びを進めていく、ことはできたが、幼児の思いを十分に読み取れず、教師主導になってしまうこともあった。幼児と一緒に試したり工夫したりしながら探究していくことがなかなかできなかった。</li> </ul> <p><b>○改善策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・項目3の「幼児期に必ず～」という点では、発達段階に個人差があり、「確実に体験」が難しい幼児もいたが3年間かけて、個々に応じた体験を積み重ねられるようにしていく。</li> <li>・知的好奇心や探究心を高めていくために、3歳児なりにこども自身が素材等を選び取るなど、自分の思いが実現できるように環境構成を意識し、援助していく。日々の積み重ねが年長になり探究する楽しさにつながるように日々の保育を充実させていく。幼児の気持ちに沿った言葉がけや幼児が考えを深められるような問いかけを工夫していく。</li> <li>・室内遊びで経験させたい内容を園庭でも行えるよう環境を工夫したり、実態に応じて遊びの場を制限したりしていく。</li> <li>・保育室の整理整頓を習慣づけ、日頃から園内全体の環境に気を配れるよう心掛ける。</li> <li>・行事に追われてしまい、主体性が少なくなってしまうことがあった。行事の精選と長期的な見通しをもっていく必要がある</li> </ul>
--

重点領域2		感じる心、しなやかな体			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	・様々な体の動きができるような運動遊びやコーディネーショントレーニングを取り入れたり日常の動作（立って靴を履く、姿勢、体を支える等）を意識したりし楽しみながら幼児の体力作りを行う。	75%	・自分から体を動かそうとし、体を動かして遊ぶことが好きな幼児が95%以上になる。	100%	A
2	・手洗い、うがい、水分補給、生活リズムを整えること等健康な生活に必要なことを意識し実態に合った指導を行うと共に家庭と連携を図る	84%	・生活リズムが整い、健康な生活に必要なことを行える幼児が90%以上になる	83%	B
3	・幼児の実態、興味・関心に応じた園庭環境について考え様々な工夫を行う。	82%	・園庭での遊びに変化が見られ、戸外で遊ぶことを楽しめる幼児が90%以上になる	95%	A
4	・自然にたっぷり触れあえるように保育室の環境の工夫、森の日（年間11回以上）を通して自然の不思議さ、おもしろさ等を充分味わえるようにする。	85%	・自然物、自然事象に興味・関心をもったり、自然物を遊びに取り入れたいりするを楽しめる幼児が90%以上になる。	100%	A
5	・遊びや生活の中で様々な感情体験ができるようにし、人と関わる楽しさを感じられるようにすると共に状況に応じて気持ちのコントロールができるよう、幼児の心に響くような言葉を考えたり指導方法を工夫したりする。	83%	・いろいろな友達との関わりを楽しんだり自分の気持ちの調整をしたりし、人と関わる楽しさや協力して遊ぶ楽しさを感じられる幼児が90%になる。	82%	B
6	・絵本やお話の世界を楽しんだり、想像する楽しさを感じたりできるように絵本の精選、環境作り、教師の言葉がけを工夫する。	86%	・絵本を楽しんだり自分のイメージを様々な方法で表現したりするを楽しめる幼児が90%以上になる。	100%	A

<様式1>

<結果についての分析と改善策>

○分析

<全体>

- ・園内研修で園庭に焦点を当てたことで、園庭環境について考えていくようになった。
- ・降園時の絵本読み聞かせの時間は、どのクラスの幼児もよく集中し、楽しみにしていた。

<年少>

- ・園庭で遊ぶ中で教師との鬼遊びをしたり、様々な遊具に挑戦したりして、体を動かすことを楽しむ幼児が多かった。一方で、発達に応じた鬼遊び、体を動かす遊びを新しく取り入れることはできなかった。また、コーディネーショントレーニングは強化月間にしか取り組めず、継続ができなかった
- ・3歳児で生活習慣を身につけることの重要性を意識し、半月ごとに生活面のねらいを明確にもち、繰り返し指導してきた。身の回りのことを自分から取り組もうとする幼児が大半になった。家庭と連携を図ることが大切であった。
- ・自然に関しては教師が意識して、教師自身も自然の中での発見や不思議さを楽しむことが幼児への刺激となり、幼児が自然物に興味をもって積極的に関わり遊びに取り入れる姿が見られた。

<年中>

- ・様々な友達と関わる中で、自分なりに友達を受け入れようとする姿が見られるようになってきた。一方で、同じ言語を話す幼児同士で集まって遊ぶことが多く、学級の友達と関わる楽しさ、という点で課題が残った。

<年長>

- ・生活習慣は、身につけてきているが雑になることがあった。布巾をしぼる、結ぶなどの手先を使った動作は、難しい幼児もいるので個別に指導していった。
- ・少しずつ友達とのつながりが深くなっていったが、言葉の遣い方が悪かったりきつい言葉で相手を傷つけてしまいトラブルになったりすることもあった。

○改善策

- ・生活習慣については、支援員とも連携を図り今週の目標等をきめ、実態把握をしながら、個別に援助をし、確実に身につけていく方法を工夫する。
- ・園庭でしかできない活動はないが、園庭と保育室とで分けて考えずに柔軟に考えられるようにしていきたい。
- ・園内や園庭に「思わずやってみたくなる」仕掛けが出てくると、さらに多様な動きを生み出すことができるのではないかな。
- ・自分の気持ちを伝える、相手の思いを知るという経験を積み重ねられるよう、年中後期から2人組の話し合いの時間を意図的に入れてもよいのではないかな。
- ・外国籍の幼児が日本語の語彙を増やせるような援助を心掛けると共に、ルールのある運動遊びやイメージが共通になりやすいごっこ遊び等、友達との関わりが深まるような教材や環境の工夫を意識する。

重点領域3		保護者や地域とつながる開かれた幼稚園			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	・教育内容が伝わるようにクラス日より、ホームページの更新、Instagram、写真掲示等を行うと共に、幼稚園の良さ、質の高さを保護者、小学校、地域に発信し理解を深める努力をする。	84%	・保護者アンケートの「幼稚園は教育方針や教育活動をわかりやすく伝えている」の肯定回答率が100%になる。	100%	A
2	・地域の3歳児の受け入れ、かんがる一ひろば開催（年26回）、地域に出かける活動、小中学校、保育園との交流等を通して「地域に開かれた幼稚園」となるよう一人一人が努力する。	77%	・様々な人に親しみの気持ちを感じ、挨拶をしたり地域に関心をもったりする幼児が80%になる。	86%	B
3	・保護者一人一人の話を丁寧に聴き、保護者の気持ちを受け入れながら信頼関係を構築し、共にこどもを育てているという気持ちを感じ合う。	77%	・保護者アンケートの「幼稚園は保護者の悩みを受け止め子育てについて共に考えようとしている」の肯定回答率が100%になる。	100%	A

<様式1>

<結果についての分析と改善策>

○分析

<全体>

- ・ドキュメンテーションは、担任の先生たちが進んで行っていた。保護者にも好評であった。

<年少>

- ・地域とつながるような活動は設定できなかった。かんがるーひろばで歌やダンスを披露する機会をもう少しもてるとよよかった。
- ・保護者と共に子どもを育てているという気持ちをもてるように、日頃から幼児の様子についての情報共有や、園庭開放を利用したコミュニケーションは不十分だった。コミュニケーションの取り方は、園庭開放を利用するかどうかにより、家庭によって差があった。

<年中>

- ・なでこの森の活用を意識することができたが、近隣の施設を利用したり、歩いて園外に出たりする機会を更にとれると良かった。

<年長>

- ・ドキュメンテーションがなかなか作成できず、他の学年よりすぐーでの配信が少なくなってしまった。

○改善策

- ・幼稚園の取り組みとして知ってもらいたいことが保護者に伝わっていないこともあった。毎日だけでなく「ここ」というところを抑えて、降園時などに簡単なドキュメンテーションを見せられるとよい。配信をすることは続けていく。こどもの育ちや保育の意図を明確に記す（育ちの芽コーナーを作ったり、毎回同じ欄に育ち等を記載したりする。）
- ・小学校との交流をもう少し増やしたい。園児にとっても小学校を楽しみにできるようにしたいし、小学校の先生に年長の様子を見に来ていただく機会があるとよい。
- ・登園時の挨拶にも年齢別にねらいをもって取り組んでいきたい。
- ・近隣の公園に散歩に行くなど、園外に歩いて出かける機会を増やし、歩く習慣をつけるようにする。
- ・保護者との円滑なコミュニケーションのために、必要事項や園での様子を伝えるだけでなく、教師から保護者自身について知るきっかけとなるような話を積極的にしたり、園庭開放を利用して週に1度は家庭での様子を聞いたりする。

【評語】 成果指標（こども側）の達成度に応じて決定する。

A：90%以上（目標達成とみなし、次年度は新たな目標を設定する）

B：50%以上90%未満

C：50%未満（目標や努力指標等を見直す）